

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通火

B U N K A T S U S H I N 2020冬 No.108



新しいって、なに？

銀杏の葉が黄色に輝くなか、Eclogion(代表：三木優希)のコンテンポラリーダンス公演が塩江美術館で開催された。ひとつの作品として完成されたダンスと音楽と美術がコラボした実験的なステージが新鮮だった。コロナ禍も悪い事ばかりじゃないのかも。(中條文化振興財団助成事業)

写真：Miyawaki Shintaro

- 第6回 あ・うんの数寄講座 茶の湯をさらに楽しむ夏期講習
- 五人様茶会 南岳没後百年記念茶会
- 12月から2月までの茶華道情報
財団からのお知らせ

発行：公益財団法人 中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL (087) 826-3355 FAX (087) 826-2212
2020年冬号 No.108 12月1日発行(季刊)

最初にお話されたのは、遠州公は徳川幕府で伏見奉行を務めた武家であったこと。美しい甲冑は、細部に渡つて色やデザインについて細かく指示した注文書が残つているそうです。家紋は、七宝紋と丸に出。三代将軍家光の茶道指南役も務めました。

床には権十郎法楽が定家様の文字で書かれた「書捨文」が掛けられ、皆で唱和しました。書捨ての文は遠州公のお茶に対する考え方を代々伝える文です。

「それ茶の湯のみちとても他にはなく君父に忠孝を尽くし家々の業を懈怠せず、殊には朋友の交わりを失うことなけれ。春は霞、夏は青葉がくれのほどとぎす、冬はいとど寂しさ勝るゆうべの空、冬は雪の曉、いざれも茶の湯の風情ぞかし」と始まります。

茶の湯は、非日常でありながら日常茶飯の中につけて難しい特別なものではなく、多くの人の力を借りて成り立つものである。さらに、一つの道具でも取り合わせの工夫で新しい発見をすることが大事ともありました。

また、季節感を積極的に取り入れた感性は、宗旦の侘び茶に対する綺麗さびの追及に繋がりました。新たな時代に則して、洗練され垢抜けた茶の湯。明るく開放的な茶の湯を目指したとされました。

江戸時代に入ると平和で豊かな時代になりました。求められるままに大名への茶道指南や道具の目利き、新たに道具を作る機会も多くなり、後に松平不昧公によつて



中興名物とされる遠州の美意識の創成に取り組みました。

中国や朝鮮、遠くはオランダのデルフトにまで道具の発注をしたほか、国内の国焼きの陶工への指導もして、数多くの名物を排出しました。

その特徴と考え方をご紹介していただきました。まずは中興名物の瀬戸春慶の瓢箪茶入と高取の円座瓢箪茶入。それぞれ象牙の蓋に一本のすが入っています。

これは象牙の中に一本だけ通つてある神経の部分が茶色の線になるように作られていて、遠州流ではこのすを右側に置いて、景色としました。この時、茶杓は蓋の左側に置くのが正式だそうです。

また、瓢箪は「ふくべの教え」として、逆らわない、押し付けない、自由なままにする。という意味もあって遠州公の好みのモチーフで、瓢箪型の茶入は、形も新しく献上する茶碗を焼くために相談さ林から、将軍家にお茶の献上をする際に新しく献上する茶碗を焼くために相談さ

ました。また、「切形」は、陶工に形の指導をするために紙をその形に切つて送つていています。

また、瓢箪は「ふくべの教え」として、逆らわない、押し付けない、自由なままにする。という意味もあって遠州公の好みのモチーフで、瓢箪型の茶入は、形も新しく献上する茶碗を焼くために相談さ

ます。柔らかい曲線の中に面を取ることでキッパリとした直線を入れるのは、それぞの職人にとつても難しい作業で、高い技術を取得する機会ともなりました。さらに好みの文様として「七宝紋」があります。二代大西淨清の仰藍釜は七宝地紋が釜の胴一面に広がっています。七宝は自在に広がつて行くことができる文様として好まれ、七宝紋透の砂張の蓋置は小堀家の家紋で、正式の濃茶をするときには使われるそうです。

お茶碗については遠州高取の切形重ね茶碗。丸いお茶碗の一箇所を少し「前押せ」をして凹みをつくりました。重ね茶碗を取りやすくするという配慮もありますが、ひとつ景色として、よく使われました。また、「切形」は、陶工に形の指導をするために紙をその形に切つて送つていています。

特に宇治の朝日焼の場合は、お茶の上林から、将軍家にお茶の献上をする際に新しく献上する茶碗を焼くために相談さ

ました。利休は黒、織部は緑、遠州は白を好みました。白は自由で無限。いろいろに染めました。

次に、織部から贈られた古若屋の大黒釜と、それによく似た京都三条釜座の飯田助左衛門作の大面取釜が紹介されました。遠州のデザインの特徴となる「面取り」については、釜だけでなく茶入、茶碗、水指にも好んで面を取られたそうです。柔らかい曲線の中に面を取ることでキッパリとした直線を入れるのは、それぞの職人にとつても難しい作業で、高い技術を取得する機会ともなりました。さらに好みの文様として「七宝紋」があります。二代大西淨清の仰藍釜は七宝地紋が釜の胴一面に広がっています。七宝は自在に広がつて行くことができる文様として好まれ、七宝紋透の砂張の蓋置は小堀家の家紋で、正式の濃茶をするときには使われるそうです。

お茶碗については遠州高取の切形重ね茶碗。丸いお茶碗の一箇所を少し「前押せ」をして凹みをつくりました。重ね茶碗を取りやすくするという配慮もありますが、ひとつ景色として、よく使われました。また、「切形」は、陶工に形の指導をするために紙をその形に切つて送つていています。

特に宇治の朝日焼の場合は、お茶の上林から、将軍家にお茶の献上をする際に新しく献上する茶碗を焼くために相談さ

ました。利休は黒、織部は緑、遠州は白を好みました。白は自由で無限。いろいろに染めました。

したが、彼の作品は、平成30年正月号の淡交や、NHK大河ドラマ「八重の桜」の最終回で、綾瀬はるかがお茶の稽古をするシーンや、連続ドラマ小説「半分青い」にも登場しています。また、理平焼15代目が京都で修行時の下宿先の大家さんでもあります。ますます身近に感じます。私達はまずはしっかりと茶の湯に励むこと、それがひいては安田さんの粟田焼やご当地の理平焼を盛り立てていく事につながる、と考える次第です。(原 大策)

第5回 8月30日(日)

「奥村家の仕事を継いで」

講師 奥村 吉兵衛(千家十職 表具師)

掉尾を飾る第五回目は、千家十職、表具師の奥村吉兵衛先生の「奥村家の仕事を継いで」と題した話を聴講しました。

南方録に「掛物ほど第一の道具はなし」とあります。その掛軸などの表装を司る表具師の話はとても興味津々ながら、難しい専門用語の職人仕事の話についていけるかと、少し構えた思いがありましたが、登場のご挨拶の後、「どうぞお気楽に」と、京なまりのやさしい言葉があり、何となく緊張が溶けました。

話は奥村家の歴史話から始まり、遠祖は江州佐々木家の流れをくむ武士・奥村三郎定道で、小谷城の浅井家に仕えてい

たこと、前田家に仕えた二郎定光の次男にあたる吉右衛門清定が母方の家業・表具職を継いで奥村家元祖になつた経緯や、その後、武士を捨てて京に上り、京都小川通上立売上ルに近江屋の屋号で「表具師」の暖簾を掲げたのを初代とし、現在(京都釜座)の十三代までの歴史が語られました。

世襲名の吉兵衛を名乗り始めた二代目が、表千家六代覺々斎家元の職家として出入りするようになり今日に至るも、その間には、表千家が茶頭として仕えた紀州徳川家の御用達にもなつたこと、跡継ぎの男子がいなくて婿養子を迎えて家業を続け、なかには、せつかくの女婿が若死にし、改めて娘を再婚させて家を守つたことなど、女系家族のドラマもあつたようでした。

表具の軸裏や屏風・風炉先・包紙・表具箱裏に印判を使い始めた七代目・吉次郎、明治維新後の茶道衰退期を乗り切る九代目の苦労、十一代に至つては戦後の耐乏生活を勤め人になつて凌いだこと、現在の自分は隠居した父や叔父たちと仕事をしていることなどを話されて、代々の家業を全うしていく大変さが累々語られました。



普段見ない、奥村家の道具を詳しく見せてもらいました。奥村家の道具は、表具(装)と表装(表)の2種類があります。表具(装)は、表具(装)は格式でいうと輪補表具(輪補表具)といつて草の行にあたり、一般に、宗匠・茶人の書や絵、または絵贊物、禅僧の墨蹟などに用いると、話が専門的になりました。もちろん、仏画や宸翰はまた違いますが、今日の待合の床には画贊物なので付け風帯、立札には塗りの軸端、座敷の軸端には華やかに永楽の焼き物を使いましたと、本紙に合わせた表装ぶりの実例紹介の後、最後に、湿らせた和紙を分厚く重ねて四つ折りにする紙金敷の作り方実演がありました。何度も分けて体重をかけ乍らの力仕事でしたが、紙包丁で整えた断面が鋭く光って見事な仕上がりを見せた時、そこには、今までのやさしい表情を一変させた表具師・奥村家十三代奥村吉兵衛の真剣な仕事顔がありました。

掛軸の本紙は仮張りして一年ほど乾かすのですが、乾き具合が春夏秋冬で微妙に違うことも覚え、これらが狂いのない仕上げに影響するだけでなく、後年になつり、何となく緊張が溶けました。

歴代の作品群をスライドにして表具師の仕事を披露しながら、紙と布(裂)で構成された軸、屏風、襖などが宗教に関連して渡来、それが高い技術や洗練されたセンスに磨かれ、さらに、拌む対象として神社仏閣を荘厳してきたものが茶の後世の人に「いい仕事してますねえ」と

いふ言葉もありました。

(妹尾共子)

五人様茶会 南岳没後百年記念茶会

十一月の財団月釜は「藤澤南岳」没後百年を記念して、濃茶席・表千家流美澤宗包先生、薄茶席・武者小路千家岡田和恵さんご担当の五人様茶会。前日の雨もあがつた小春日和の一日、郷土の偉人を偲びながらのひとときをお楽しみいただきました。



茶会の主題は美澤先生が敬愛してやまない藤澤南岳贊歌とともに言えましょうか。お茶本来の、季節を気遣つた道具の取り合わせや作法通りの扱い、また時節柄、コロナ感染に配慮した茶室に客を招き、南岳父子や孫が揮毫した掛け物をご披露しながら、主客とともにお茶を楽しむという趣向に見えました。

南岳（藤澤恒）は、幕末の高松藩を戊辰戦争の危機から、また、高松城下を戦火の危うさから救つてくれた恩人として語り継がれています。慶応四年、鳥羽伏見の戦いでの発砲事件で朝敵騒動に巻き込まれた高松藩は、家老二人の切腹と十二万両の献上金という多大の犠牲を払いながらも安堵を極めました。その裏には、自らが主宰する泊園塾の門下生であつた薩摩藩士を伝手にして、官軍に嘆願書を提出して交渉を成功させた若き儒学者の働きがありました。

日本の夜明けを夢見た勤皇の若者たちが命をかけて論じ戦つた時代です。そんな時に、我が讃岐・高松藩危急存亡の折

に登場した熱血のエネルギーに共感されたのでしょうか、はたまた、明治期に入つて学問本道（父の東暎が大坂で開いた泊園塾を長男の南岳が後を継ぎ、後年にあって泊園書院と改名。関西大学の源流）での成功ぶりに尊敬の念を深くされたのでしょうか、席主の美澤先生の傾倒ぶりはただ事ではありません。

「いえね、昔にね、たまたま塩江町の山あいに茶室花待草舎を建てたのがご縁で、塩江出身の藤澤南岳さんを知つたんです」が出発点らしいのですが、南岳の書の蒐集はつとに有名で、今まで個人的に南岳啓蒙の茶会をもつたり、平成二十五年には高松市歴史資料館で「知の巨人 藤澤東暎展」没後百五十年記念（左近さん）筆・鯛釣図。瀬戸内の穏やかな海に漕ぎ出した小舟に御船印「高」を染め抜いた旗、釣りを楽しむお武家様ご自身とお見受け。絵筆も達者だった頼該が、藩の方針を評定する城中書院会議の折に、若い南岳を強く後押しした勤皇の殿さまだつことを思うと、見事な布

さて今回の茶会、寄付の床の額は、昭和の大坂文壇の大御所であり、南岳の孫にあたる作家・藤澤恒夫（西華山人）の筆。白楽天の五言絶句の色紙。酒を愛する詩にウイスキー壜の自作絵も添えて、洒落た文士のお出迎えがありました。

さらに、広間に南岳の軸をはじめ、友人たちと江南の春を楽しむ様子の画贊絵巻物、塾生だった高松市初代市長の赤松渡や華道嵯峨御流総裁の軸装などの展示があり、しばし鑑賞の後、案内があつて露地から美藻庵に進みました。

躊躇口から身をかがめて入ると、床壁に自邸の庭の様子を五言絶句に詠んだ東暎（藤澤甫）の書、床畳に南岳の額写真が飾つてあり、父子の長幼の礼儀正しさに感じ入りました。柱に掛かった躰の花入れに白椿初嵐、菓子は光琳菊という晩秋の風情の中、静かに湯気をたてる釜の湯で四滴点前の各服（一人点て）の濃茶をいたしました。旧知の主客が和やかな会話で次々と茶道具にスポットライトを当てていきます。やがて、茶杓の材は

黒文字ですとの後で、主のつれづれ話で、塩江町の山深い所に松平家の黒文字の木畠があつたと聞き、美澤先生の塩江ツウの一面が伺えました。

薄茶席は晴松亭座敷。床には南岳の一行物「百里行者半九十里」、後世、事を成すにあたつて最後まで慎重にすべしとの格言にもなつた中国古典「戦国策」の一節です。亭主の岡田さんは天遊卓で薄茶を点てながら、脇床の花入れの前にバラを置いた黒い小石は：と、東暎の子供時代の逸話、習つた字を河原の小石に書いておさらいしていたら、河原が真っ黒になつたという猛勉強の跡を再現したのですと話されました。漢学の泰斗も幼少期からの努力あつてこそ、地元では子供たちへの「勉学のすすめ」とした有名な話が茶席で披露されると、先ほど来たちの連携した一体感が伝わつてほのぼのとしました。

続いて、立礼席で点心のお料理をいただくことになりました。床に松平頼該（左近さん）筆・鯛釣図。瀬戸内の穏やかな海に漕ぎ出した小舟に御船印「高」を染め抜いた旗、釣りを楽しむお武家様ご自身とお見受け。絵筆も達者だった頼該が、藩の方針を評定する城中書院会議の折に、若い南岳を強く後押しした勤皇の殿さまだつことを思うと、見事な布石にいざなわれた美澤先生の南岳贊歌を痛感するとともに、郷土、地域を大切にする心に打たれたお茶席でした。

手土産に食パン？

最近県内にもたくさんのお食パン専門店がお店を出店してきました。そのまま食べても耳まで柔らかいものや、ほんのり甘い食パンなどそれぞれのお店に特徴があって面白いですよ。数量限定でいつ行っても買えるものとは違う希少感が手土産にもぴったりです。

ではなぜ四角いパンを食パンと呼ぶようになったのでしょうか？美術デッサンで線を消すために使っていたパンを消しパンと呼んでいたのに対して食パンと呼びだしたとか、明治時代に外国人が主食として食べていたパンだから主食パン、食パンと呼ぶようになったとか諸説あるようです。イメージとしては菓子パンはおやつ、食パンは主食って感じから主食パンの説が面白そうです。

専門店食パンは一本売りがほとんどです。一本で800円前後が相場みたいです。この一本は約2斤、スーパーなどで売っている袋入りのパンは半斤です。価格的には2倍程度でしょうか？この800円前後の価格設定が手軽な手土産に最適な価格設定ではないでしょうか？

自分のためのちょっとしたご褒美にもいいんじゃないでしょうか。ぜひ並んでいろんなお店の食パンを楽しんでみてください。



昭和の半ば過ぎ、歳末の商店街にジングルベルが流れ、イブには俄クリスチャンの酔っぱらいが夜の街を横行する光景がよく見られました。翌朝、洋菓子店では売れ残ったケーキを山と積んで安売りし、この現象を女性の結婚適齢期になぞらえて、女は二十四、二十五で一転などと、今では考えられない笑止な俗説が囁かれたりもしました。

近年はお茶の世界でも聖夜をしつらった演出で、ツリーやサンタ、トナカイなどを形どった和菓子を一碗の茶に添えて、異国の風習を祝う茶席も珍しくあります。

写真のサンタさん、赤い三角帽子に白い髭はともかく、半袖に海パン、ビーチサンダルといういで立ち。南国のハワイでは良い子にプレゼントを配る時のコスチュームもかくやあらんというわけでしょうか。

古今東西、救世主誕生の宗教行事はスタイル様々に季節の風物詩になりました。



財団行事予定 (12月～2月)

12月

- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生
12月1日(火)午前11時～午後3時
- ◆ 書道教室 每月第1・第3金曜日
森本義人先生
12月4日・18日(金)午前10時～12時
- ◆ 和菓子講座 每月第2金曜日
高橋初乃先生
12月11日(金)午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)
毎月第2・第4土曜日 山下純子先生
12月12日・26日(土) 午後1時～
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日
12月15日(火)午前10時～午後2時(受付)
自由なお時間にお出掛け下さい。
ランチは要予約です。

1月

- ◆ 初釜
武者小路千家の高畠先生が點初のお席を設けてくださることになりました。
「令和三年。新型コロナウイルス禍での新年を寿ぎ、また邪惡な疫病を祓う御茶を差し上げたく存じます。」と席主からの
- メッセージと合せてご案内いたします。
好例の福引もありますのでお楽しみに。
日時 1月5日(火)
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)
席主 武者小路千家 高畠守徹
茶席 濃茶・薄茶・点心席
会費 8,000円
入席時間ご案内
第1席 A席・B席 9時
第2席 A席・B席 10時30分
第3席 A席・B席 11時15分
第4席 A席・B席 12時45分
第5席 A席・B席 14時15分
各席6名様 2時間15分を予定
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
1月8日(金)午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生
1月9日・23日(土) 午後1時～
- ◆ 書道教室 森本義人先生
1月15日・29日(金)午前10時～12時
- ◆ 月に一度の喫茶室
1月19日(火)午前10時～午後2時(受付)
自由なお時間にお出掛け下さい。
ランチは要予約です。

2月

- ◆ 書道教室 森本義人先生
2月5日・19日(金)午前10時～12時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
2月12日(金)午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生
2月13日・27日(土) 午後1時～
- ◆ 2月月釜 五人様茶会
「皆様いかがお過ごしですか。人恋しいこの頃です。来年こそはお会いしたいですね。」と氏家先生からの一言を添えてご案内いたします。
日時 2月14日(日)
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)
席主 裏千家 氏家宗鶴
茶席 濃茶・薄茶・点心席
会費 5,000円
入席時間 1月「初釜」と同様
- ◆ 月に一度の喫茶室
2月16日(火)午前10時～午後2時(受付)
自由なお時間にお出掛け下さい。
ランチは要予約です。

茶華道ガイド

茶道裏千家淡交会香川支部

TEL 090-4337-1280

3/7 多度津分会 月釜 席主:阿部宗美
総合福祉センター 500円 10:00~15:00

3/7 善琴分会 月釜 席主:香艸会
樟蔭軒 500円 10:00~15:00

武者小路千家香川官休会 TEL (087) 862-8574

中止 1/24 香川官休会 月釜 席主:小池妙公
無量寿院 700円 9:00~15:00

おいでまい香川

香川県内の様々な
イベント情報を
随時更新中!



<https://oidemai.kagawa.jp/>

● 財団からのお知らせ

中條文化振興財団

中條文化振興財団・文化活動奨励事業

10月1日(木)、財団の設立記念日を迎える、令和2年度財団賞授賞式及び助成金交付団体認定書授与式を開催いたしました。

財団賞の庵治踊り保存会と吉田るいまま氏には、藤川代表理事より賞状及び奨励金を贈呈致しました。続いて、助成金交付認定を受けて

いるEclogion、高原水車友の会、高松東部商店振興会に認定書が授与されました。

受賞後のご挨拶では、活動の概要やコロナ禍での新しい取り組みなどお話をいただき、どの団体も、大変厳しい状況の中、前向きに活動をされておりました。



式典終了後の懇親会は、新型コロナウィルス感染防止の為、中止としました。

令和3年度 助成金応募受付中

● 対象事業

令和3年4月1日から令和4年3月31日までに実施予定の文化事業。

詳しくは助成基準をご覧ください。

● 応募の方法

財団所定の助成金交付申請書を提出してください。(HP参照)

応募締切は、令和3年1月末日。

審議委員会による書類審査を行い、必要があればプレゼンテーションを開催。令和3年3月末までに結果をご連絡致します。

● 助成金

30万円を限度とし、活動に応じた金額を審議委員会が決定致します。

助成基準、所定の申請書等は、当財団ホームページよりご確認いただくか、事務局までお問合せ下さい。

<https://chujo-zaidan.or.jp>

TEL (087) 826-1335
FAX (087) 826-1212
info@chujo-zaidan.or.jp

〒760-0017
高松市番町二丁目一一一二
公益財団法人中條文化振興財団
編集部

【声・情報お寄せください】

いる方たちとの出会いや、財団賞・助成金制度を通じて地元の人たちの活動を知ることもできました。地道に一つのことに取り組んでいた人たちがまだいらっしゃるでしょう。自薦他薦は問い合わせませんので財団にご連絡ください。

新しい年は例年のように催事ができるようと願っています。

マスク着用も日々の生活に溶け込んできました一年でしたが、最後の月となりました。

春先から計画していた催事も感染症の流行のためやむなく中止になつたことは本当に残念でしたが、この災いの中でも夏期講習は開催され講師の方々のお話を聞き、たくさん学びができた幸いでした。

編集後記